

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400137		
法人名	社会福祉法人常盤福祉会		
事業所名	グループホーム 万葉 堀米の里		
所在地	栃木県佐野市堀米町1270-6		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様を生活の主体者としてとらえ、自己が失われていくような不安を感じさせないよう環境を提供出来るように心掛けております。お客様の要望に沿った外出支援(外食、ドライブ、お花見、お散歩、買い物)おやつ作り、ユニット調理に力を入れています。ベランダに、季節の花を植える等、季節の野菜を使った料理やおやつを提供を心掛けております。また、柔整師によるマッサージの提供を週に2回、その他美顔エステや、アロマオイルを使用し、ハンドマッサージも行なっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、市内中心部にある駅前の周囲を住宅地に囲まれた閑静な場所に位置している。ホームは建物の2階部にあり、1階には小規模多機能型ホームが併設されており、万葉福祉プラザとして地域密着型サービスの提供が行われている。ホームでは法人の基本理念である「私たちはお客様の満足をすべて優先します。私たちは一人ひとりの生活や思いを大切にします。私たちはプロとして心をこめて行動します。」の三つの約束に基づき、職員一人ひとりが利用者本位の支援に取り組んでおり、認知症の進行を少しでも和らげる為に公文学習療法を行っている他、マッサージの提供や排泄の自立支援にも力を入れているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を学習しながら、各部所のリーダーなどが講習会へ参加し、目標に近づけるよう心掛けている。	利用者本位の生活提供と支援提供者である職員の心構えを明記した基本理念が作りあげられており、職員会議等で共有に努めると共に入居者一人ひとりの支援内容を振り返りながら、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントの際に、地域の方々にも参加して頂く等は心掛けている。日常的には、利用者様の希望時は、外出支援にて対応している。	自治会には法人として入会しており、法人で実施する夏祭りや花火大会には地域住民にも参加を呼びかけ交流を深めている。また、散歩時等には近隣住民との会話を楽しんでいる他、公民館等に歌を聴きに出かける等、地域と交流に努めている。	今後、ホームが更に地域に周知され、近隣住民等が気軽に来所できる場所となるためにも、ホームの事業や取り組み状況等を地域に向けて積極的に発信していく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人理解や支援の方法だけでなく、高齢者介護を多くの方に理解して頂きたく、ヘルパー2級講座を開設予定である。申請済みである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催している。利用者様、ご家族の意見を大事にし、サービス向上につなげていけるよう、心掛けている。	運営推進会議は入居者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加により2か月毎に小規模多機能ホームと合同で開催している。会議ではホームから利用状況や行事等の報告の他に、参加者との意見交換や地域情報等の提供があり、運営や支援内容の向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや疑問等を、質問させていただいている。また、アドバイスをさせていただいて、活かしていけるよう取り組んでいきたい。	市担当者には日頃から制度や提出書類等の相談及びホームの状況を報告している等、日頃から連携に努めている。今後、近隣の保育園や小学校の児童との交流等も検討しており、市との関係を更に密接にしていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束ゼロ委員会に参加し理解を深めている。ベット策も、基本的にないベットを使用している。	法人の身体拘束ゼロ対策委員会に参加し、身体拘束に該当する行為や防止策の把握に努めている。言葉での拘束にも配慮しており、「少し待ってください。座ってください。」等の抑制するような言葉は使わないように注意を呼びかけている。玄関等の施錠は通常は行っていないが、入居者の状況によっては安全を確保するために家族の了解を得て、施錠することもある。	

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について、学ばせて頂いている。職員も虐待が見過ごされることがないように、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、学習不足である。それらを活用出来ていない状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や利用者規約等、入所される際にお時間を頂いて、納得して頂けるまで説明させて頂いている。随時、疑問点にもお応えできるよう、コミュニケーションを図らせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、ご意見を言って頂けるよう、声を掛けさせて頂いている。また、きちんと運営に反映出来る様、会議にて施設長に報告相談している。	家族には入居者の健康状態や生活状況等の報告を定期的に行い、情報の共有に努めている他、面会時等には意見や要望等の確認を行い、入居者支援に役立てるよう取り組んでいる。	家族から職員一人ひとりの名前等が分かる様にして欲しいとの要望もあることから、今後、法人とは別の当ホーム独自のお知らせや広報紙等を作成し、職員紹介を行う等の取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人一人と、一か月に一度は、面談を行ない、一人一人の意見や提案を聞き反映させて頂いている。	職員は施設長や管理者に日々の業務や職員会議等の場で意見や提案を表す機会が設けられており、職員からの提案により毎回のおやつや誕生会の写真等を撮影し、家族に提供する等、職員からの提案等を運営に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップした際、合格支援制度等、職員のやりがいを維持出来るよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が、研修に参加出来るよう、会議の際に随時声をかけている。また、研修内容を参加できなかった職員にも、情報を提供してサービスの向上に努めている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会の設置により、各施設と交流出来るような取り組みを行なっている。その際、各施設でのサービス内容を確認し、よりよいサービスに繋げていけるよう心掛けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様、お一人お一人の不安を取り除けるよう、声かけを行なっている。何が言いたいかを、察する能力の向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に、納得したサービスを提供出来るよう、納得して頂けるまで、話し合いを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の状況を、客観的に判断させて頂いている。様々なサービスが、紹介出来るよう、日々みんなで学習に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴や性格を理解し、尊敬と敬意をもって、生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とのコミュニケーションを大切に、外出やお忙しいご家族様には、一緒にお茶を飲んでいただく等、ご本人様との一緒に過ごす時間をつくっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の、意欲向上の為に、行きたい場所や、会いたい方との面会等、ご希望時に敏速に対応させていただいている。	本人や家族から、馴染みの場所や店、本人の趣味趣向等の把握に努めており、以前に住んでいた家や馴染みの店での買い物への同行等、本人の希望に沿った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の、性格を理解し、良好な人間関係が保てるよう、お話し合う方同士での時間も大切にしている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、新しい施設な為、あまり前例がないが、今後の対応として、心掛けていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の立場に立つことが出来る職員育成を心がけている。もしその方の立場だったらどうしたいかを考えられるよう、指導している。	入居者の思いや意向の把握は本人からの言葉や表情等により把握している。意向の確認が困難な入居者には、日頃からコミュニケーションを多く取る様に心がけ、仕草や表情から把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方のバックグラウンドも考慮したサービス提供が出来るように、勉強させていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠状況や、表情、顔色、しぐさ、歩行状態、発言状況等、様々な視点でケア出来るよう職員同士でも話し合いを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方のお気持ちを大切にしたいと日々思い、ご家族様や、その他関係者の方々にも協力していただけるよう、コミュニケーションを図らせていただいている。	本人や家族から暮らし方の希望等を確認し、本人の介護度やADL等を職員間で協議した上で介護計画を作成している。計画の見直しは、毎月のモニタリングにより、状況を確認しながら半年毎に見直しを行っている。家族からは認知症の進行防止やリハビリ、外出等の要望が多い状況にある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、その日にあったことやケアをしていて気付いた点、実践結果などを記入している。必要時は、別紙にデータを記入し、ケアの向上に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に添えるよう、連絡をこまめに行なわせていただいている。新しいサービスも取り入れられるよう、固定概念でケアを行なわないよう勉強させていただいている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生かして、なるべく外出出来るよう心掛けている。季節の野菜を使った料理も提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	変化が見られた際には、ご家族様に連絡し、状況の説明をさせていただいている。納得のいく医療が受けられるよう、状況報告をさせていただいている。	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診時の付き添いは家族に同行をお願いしている。受診の際にはホームから入居者の睡眠、食事、水分補給、発言内容、排泄状況等の情報の提供を行う等、家族と情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには、看護職の配置がないが、職場内の看護師に、随時相談援助をさせて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたケースが、まだ余りないが、今後に備えた対応を考えていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と、話し合いを早い段階で出来るよう心掛けたい。重度化した際、週末期の希望をもう一度、しっかりと確認していきたい。	重度化や終末期への支援については、本人や家族の希望を尊重するようにしており、最近も家族からの強い要望により、法人内の看護師の協力を得て看取りを行った。看取りについては、職員間で様々な意見や不安等もあることから、マニュアルを作成し、全ての職員が方針を共有しながら支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行なえていないが、応急手当や初期対応がきちんと行なえるように、会議の際勉強していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方に、協力していただけるように、声を掛けさせていただきたい。職員は、定期的に消防署の方に協力して頂き、避難訓練を行なっている。	消防訓練は併設している小規模多機能型等の事業所と合同で年2回実施しており、夜間時等を想定した訓練も行っている。館内にはスプリンクラーが完備されている他、水や缶詰等の備蓄も用意されている。	当ホームは2階に位置し、夜間時は併設施設を含めても職員が少なくなることから、災害時における地域からの協力体制の構築や大規模災害に伴うライフラインの寸断等も想定した検討を期待したい。

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が出来るように努力していきたい。	職員は年長者である入居者には常に尊敬の念をもって接しており、馴染みの関係であっても節度ある言葉遣いや支援を行っている。入浴や着替え、トイレ等での介助の際には本人の羞恥心に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様からの訴えは、あまり見られないので、介護者側から声を掛けさせて頂いている。極力、希望に添えるように、対応させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどの様に過ごしたいか希望に沿って支援はできていない。心掛けて、なるべくその方のペースを大切にしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や、クリーム等にて対応している。メイクされる方は、継続していただいている。ブラシや、アイブロウ等購入している。施設内にて、研修を受けた職員が、エステを施行するサービス提供も行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は、職員が行なってしまっているが、おやつ作りの際は、一緒に準備させて頂いている。片づけは、一緒に行なっている。食器洗いをしてくださる方もいる。出来ない方は、下膳だけ行なって頂いている。	食事は業者へ委託しており、おかず類が調理された状態で毎日届けられている。ご飯や味噌汁類はホームで職員が調理しており、入居者も配膳や片付け等を職員と共に、職員も入居者と一緒に会話を楽しみながら食べている。おやつは手作りこだわっている他、定期的に外食にも出かけており、食事が楽しめるよう支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食ごとに記入させて頂いている。飲水量の、細かな数値は残していないが、10時、15時等やその他も、細かに水分を提供させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の、口腔ケアは行なっていないが、就寝前には、一人ひとりのお客様に合った口腔ケアを行なっている。		

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレ誘導は、行なっていないが、一人ひとりの排泄のタイミングは記録、研究して対応している。自尊心を傷つけないよう、配慮している。	入居者本人の意思による自立した排泄支援を原則としているが、一人ひとりの状態を考慮しながら、さりげない声かけや誘導により、できるかぎりトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量の確認は行なっているが、予防の為に工夫は出来ていない。牛乳などを摂取して頂く程度で、その他下剤にて、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理な入浴は、行なっていない。ある程度、週に2回は入って頂きたく、声を掛けさせて頂いている。	毎日でも入浴できる態勢になっているが、本人の希望や体調等を考慮し週2~3回程度の入浴を行っており、入浴に拒否傾向が強い入居者にはタイミングや声かけを工夫しながら、入浴を促すようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠の提供を行なっていきたいが、睡眠時間を確保出来ない利用者様もいらっしゃる。ご家族様や、主治医と連絡をとり、対応策を見出すよう努力させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェックは、毎食後に行なっている。内服をスムーズに行なえるよう、職員間、主治医の協力のもと服薬の支援を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみを見つけられるよう、外出支援に力をいれている。食事の希望を叶えられるよう、その日に食べたいと言われたものを、その日のうちに調理し、提供させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援には、力を入れている。左記内容どりに支援できている。	外出支援は本人の希望や職員のアイデアも取り入れながら可能な限り外出できるように取り組んでおり、ホーム周辺への散歩や少人数での食事やコーヒーを飲みに出かけている他、梅や桜の花見等の季節毎のドライブにも出かけている。	

グループホーム万葉堀米の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が、お金を持つ大切さを理解しているかは、把握できていないが、左記内容は実行させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左記内容どおりに、実行出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じれるよう、空間を演出している。生花や、ガーデニングの植え込みを一緒に行なっている。季節の野菜を使ったの料理を提供している。	ホームは建物の2階にあり、日当たりが良く、周辺の眺めも良いことから開放感のある明るい空間になっている。清掃が行き届き、季節感を活かした飾りつけのある共有空間にはボサノバが流れ、換気や温度等も適切に管理されており、入居者がソファーやリビングで気持ちよさそうに寛ぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話しの内容を伺い、年齢や性別を考慮し、少しでも楽しい時間を過ごせるよう考慮させて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用されていた物や、好みの物を活かして生活して頂いている。	入居前の生活と違和感がないよう、本人や家族には馴染みの物や使い慣れた品々の持込を促しており、テレビや炬燵、家族の写真や位牌等が持ち込まれ、各々に個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全であることは、心掛けているが、自立した生活が送れるように配慮はしているが、工夫は出来ていない。		